

2024年4月30日 人間の安全保障と平和構築 2024年度連続セミナー第一回

講師：黄川田仁志 自民党国防部長（衆議院議員、元衆議院外務委員長、元内閣府副大臣、元外務政務官、国際人口問題議員懇談会事務総長）

講演タイトル：「日本外交・安全保障の現場から考える『人間の安全保障』の理想と現実」

2024年4月30日（火）の午後7時5分から、上智大学国際会議場において、黄川田仁志・自民党国防部長（衆議院議員、元衆議院外務委員長、元内閣府副大臣、元外務政務官、国際人口問題議員懇談会事務総長）を講師にお招きした「人間の安全保障と平和構築」連続セミナーの1回目が開催されました。



>>約150人の参加者が詰めかけた

その後、黄川田氏から、冷戦が終わった後の、1994年に「人間の安全保障」という概念が生まれたことや、当時「国家間の戦争がなくなり、人間の安全保障がより重要になる」という認識が世界に広がっていたことについてお話がありました。しかしそれから約30年たった今、国家間の戦争も、内戦も続いており、そのような状況にはならなかったことについて述べられました。他方で、人間の安全保障の意義が薄れたわけではなく、現在のように軍事紛争が続く中、「どうすれば、一人一人の安全を守っていけるか」を考えるこの「人間の安全保障」という概念の重要性はさらに高まっていると、黄川田氏は強調しました。



>>黄川田仁志議員

その上で黄川田氏は、アフガニスタンの貧困や干ばつによる飢餓を克服するために尽力されたペシ

ャワール会の故・中村哲氏について触れられ、「現地の人々が自分の力で生きていけるような状況を作り、自立を助けること」が、最も重要であり、日本は欧米や中国と比べても、現地の人々の自立のために支援をし、成果をあげている事業が多いことを力説されました。黄川田氏が外務政務官として訪れたブルンジでも、日本が支援したバスが30年以上使われていることを目の当たりにし、現地の人々に寄り添って行っている日本の支援は、世界的にも評価されていると強調しました。

そして、2021年にアフガニスタンで人道危機が発生した際、東大作・上智大学教授と共に、国際人口問題議員懇談会（人口議連）として、「アフガンの人々の命を繋ぐ人道支援や、20年間で24000ヘクタールを緑地化したペシャワール会による灌漑事業を拡大し、アフガンに生きる人々の自立を助ける支援が重要だ」という提言を、外務大臣に対し申し入れしたことなどを紹介しました。そして、ウクライナ戦争後、欧米の関心がウクライナに集中する中で、アジアの危機や、マスコミにあまり出ない危機や紛争についても日本がしっかりカバーし、問題解決に努力することが大事と強調しました。

また黄川田氏は、「困っている人を助けたい、という人情」と、「国際社会の非情」、のはざまで、どう判断していくかが、これからの日本人に問われると語り、ガザの悲惨な人道状況と、その歴史的背景についても説明されました。そして「情けは他人のためならず」という言葉の通り、国際社会で生きている限り、日本だけがよい、という意見は通用せず、他の国のために誠実に支援をすることは、国際社会での日本の評価を高め、いずれは日本のためにもなることを力説しました。また日本

は中東に石油などの資源を頼っており、そうした地域の平和のために尽力することは、日本の国益にもなることを強調しました。

最後に、日本は軍事的な貢献には限界があり、人間の安全保障を高めていくという理念に則り、世界各地での復興支援や、人道支援、アジアへの支援、などを誠実に続けながら、日本が「法の支配が大事だ」と国際社会で言い続けることが重要と語りました。国際社会にも、守らなければならないルールがあり、それが崩れてしまうことは世界全体の損失であり、「法の支配」の重要性を言い続けることは、日本が世界に貢献できる重要な点だと強調しました。そして、「Human Security」を促進することが、ひいては人々の自立や、地域の安定につながり、「National Security」にも寄与すると力説し、講演をまとめられました。

講演後、前嶋和弘・上智大学教授、国際関係研究所副所長から、アメリカ政治の動向なども踏まえて、黄川田氏の講演に対するコメントや質問が行われました。その後、会場に集まった約150人の参加者から次々と質問が出され、黄川田氏もその一つ一つに丁寧に答えて下さり、非常に熱気のあるセミナーとなりました。



>>左から

東教授 黄川田議員 前嶋教授



>>参加者と熱心な議論

最後に、本連続セミナーの企画・統括で、司会も務める東大作・上智大学教授から、黄川田氏が事務総長を務め、現在、外務大臣の上川陽子氏が会長を務める「国際人口問題議員懇談会」が、2020年に「コロナ禍の世界的解決に向けた日本の役割」、2021年以降「アフガニスタンの人道危機への日本の対応」について、何度も東の講演会を開催して下さったことへのお礼の言葉と、今回のセミナーのために上智大学まで来て2時間以上にわたってセミナーの講師を務めて下さったことへの深い感謝の気持ちが示され、会が終了しました。